

クラレとゼンセンに感謝して

福岡県・元ゼンセン北九州支部長・月岡 美次郎

力と政策

私の居間には「力と政策」、別室には「誠実」の掲額があります。もう一枚「初心忘るべからず」もあります。何れも敬愛していた元ゼンセン同盟会長の滝田 實さんから頂いた揮毫である。

私は数多くの選挙に関わってきたので、議員、首長など有名人の知己は多いが、自分から求めて揮毫して頂いたのはこれだけである。

昭和48年に退職を思い立った時、ゼンセン本部やクラレの幹部から繰り返し翻意を促された。中でも親友であった書記長の山田精吾さんからは別府で枕を並べながら深夜まで説得を受けたものだった。

奇縁にもその当時私は、吉川英治作の「宮本武蔵」を愛読していて、その一節に武蔵が徳川将軍の指南役選定のご前試合において柳生宗家に勝ちながら、密かに江戸城を去る場面があつて、その時の心情を「入るは栄達の門、出るは栄光の門」とあつて、この言葉と行動に感動していた矢先であった。

だから、私として翻意して残るより、男が一旦辞職を口にした以上はと、自分に鞭打って職を辞した。思えば43歳、労働運動でもこれからの人生だったかも知れない。

以来既に30有余年、私はいつもクラレの企業と労働組合から受けた薫陶、ゼンセン活動から刻み込んだ信念、生きる道、それらの経歴を誇りにし、それに恥じない生き様を心掛けてきた心算である。

小島常任と北九州支部で

私が赴任した昭和41年11月当時のゼンセンは、福岡、佐賀、長崎、熊本の4県での北九州支部の主な組織は福岡で西日本紡績(約500名)、久留米のタオル5社・田川など、佐賀では大和紡績(約1000名)、熊本の中央紡績(約500名)長崎は出張所程度、私に要請されていたのは、参議院選挙による福岡県での民社党と同盟の争い対策でもあった。

北九州支部といっても僅か3坪の狭い事務所にまともな什器、備品もなく、そこに民社党の三好正博さんと同居の状態。正直、クラレ出身でそのままゼンセン本部詰めの私にとって格好の島流しといったところ。

まず、組織回りだが今のように道路は良くない。ブルーバード1200に二人とも免許取立てでよく走り回った。熊本からの帰りは何時も深夜になっていたが、国道3号線を100km近くで飛ばしたものだ。この頃、二人で泊まった宿屋での浴衣が青色とピンク色でちょっと不思議に思ったが、それがいわゆるラブホテルとは後で知った。

小島謙吉常任は本当によく働いてくれた。私にとって得がたい最高の相棒だった。その小島君はしばしば深夜のスピード違反で罰金を取られたものだった。

深夜に急遽自宅で夕食会など

昭和45年頃か、佐賀から吉川織物の幹部5人が初めて支部に来てくれた。事務所で話し込んでいたら外は雪だ、既に屋台も出ていない、急遽、女房に電話して夜食を作ってもらい、みんなを案内し腹ごしらえをしてもらったこともある。

久留米通いでは国道の「まるぼしラーメン」がお決まり、よく夕方食べて翌朝の3時、5時頃に立ち寄るので店の人から不思議がられたものだった。

昭和47年頃、長崎県で約10ヶ所以上に厚木ナイロンのパンスト工場が出来て、その組織化と指導に当時常任の石田解雄君と走り回った。とにかく山越え野を越えてを地で行くようなもの、この頃はドライブインなんてもの無かったので、しかるべき所で食べないと空腹のままになる。

ある時は、長崎帰りに佐賀の吉川織物に寄らなければならないので、事前に電話して夜11時頃に入るので夕食を作ってくれるように頼んだこともある。

石田解雄君は、もともと本部から「見習いとして鍛えてくれ」と要請されていたのに、本来の常任の充足は遅れたこともあった。彼には必要以上にきつく当たったと思う。彼が派遣された当時は本当に坊ちゃん型であったが、賃金要求等のオルグをしていると、さすが教育系大学出、かなり堂に入った話をしているのに陰ながら感心したものだ。

私と民社学同

昭和40年に福岡の地を踏んだとき、民社党の三好正博さんを知った。彼は民社党の本部に勤務していたとのことから、政党や政策等に極めて明るく、さらに行動派であった。その彼が民社学同と称する大学生を数人可愛がっていたが、この三好さんが41年6月に急逝されてしまい、私は彼の功績と遺族（夫人のみ）の生活を考えて、民社党葬を提唱、盛大な葬儀と資金の確保に成功した。（思えば福岡に来て僅か半年の奮闘）

次に遺産ともいえる民社学同の支援である。

私は、先ずゼンセン支部事務所の鍵をナンバーリングに替え、学生が自由に出入りできるようにすると共に、事務所にはいつも棒状のラーメンを保管し、自由に食べられるようにしておいた。また、友好関係の屋台組合の幹部の店に預託して、学生たちが時に屋台で楽しめるようにしてあげた。

そのお陰か、福大、九大、西南大、工大などの学生が集合してくれるようになり、福岡は全国的にも有力な民社学同の拠点を誇った。

この民社学同から立派な人が沢山育っている。

退職後の主な活動（仕事）

退職後、私はフラット総業なる建材の販売と宅建業を始めた。お陰で多くの仲間が集まってくれた。それは私の人脈に期待された模様であった。しかし、私は仕事をしてもお金を貰いきれないため、その期待には応え切れなかったと思う。

天神の再開発・町づくり

昭和50年、ひよんなことから福岡市の中心・天神因幡町の再開発での地権者調整に参加、最初は敬遠されたが、3ヵ月後には事実上地権者29名の代表となって、商業ビルの建設、ニチイの誘致と地権者の権利調整を終えた。

引き続き、亀井県知事・後藤・桑原と歴代福岡市長を口説いて、天神と中洲を結ぶ「福

博プロムナード」づくりの実現、それに関連しての都心の町づくりに成功。

さらに、平成10年4月から県有の文化・体育施設の高齢者の利用の無料化に成功。
ある時は中型の病院の再建を受けて、オーナー代行として病院経営の改善に当たり、一応の成功を収める。

このように余所者^{よそももの}にとっては考えられない程の大事業を成功させることが出来た。
目下はゲートボールを通じて県・福岡市・博多区協会などで重要な役割を果たしている。

クラレとゼンセンに感謝

これらの仕事が出来たのは、クラレで受けた企業人としての薫陶、そしてゼンセンで育てられた勉強と経験の賜である。

今も私は清貧にやせ我慢をしているが、政治家・行政・財界に対しても胸を張って生きておられる。

感謝とともに、より良いゼンセンOBでありたい。

主な経歴

昭和5年7月1日生（現在77歳）

昭和26年4月 クラレ富山労組 調査部長（21歳）

昭和34年4月 クラレ本部 調査部長（29歳）

昭和37年10月 ゼンセン本部 賃金部副部長（32歳）

昭和40年11月 ゼンセン北九州支部長（35歳）

昭和42年2月 福岡県住宅生協理事長（36歳）

昭和48年12月 ゼンセン同盟を退職（43歳）

昭和49年3月 クラレを退職

以 上